

## 緒言

2020年は現代社会が決して過去の歴史と無縁ではありえないこと、当たり前のものだと思っていた日常が有事には脆く儚いことを浮き彫りにした一年であった。この地球に生きる各個人が大なり小なり身をもって体験したように、コロナ・ウイルスの感染拡大は市民生活に大きく影響した。最愛の人を失ったという方もおられることだろう。2020年には世界的な疫病の猖獗に限らず、数多の歴史的瞬間も目撃された。本邦でもオリンピック延期や政権交代があったことは記憶に新しい。世界的には、流血を伴う紛争や反政府デモが報道され、いわゆる未承認国家を含む各種政治共同体が滅亡の危機に瀕した例もあった。旧ナゴルノ・カラバフ自治州及びその周辺の保障占領地を巡るアルメニア・アゼルバイジャン両国の正規軍の交戦、それを巡る大国間の外交上の駆け引き、香港における民主化デモとそれに対する国家安全維持法の成立など、いずれも記憶に新しい。これらの情報は国内外での報道、政府関係者やジャーナリストのSNSでの発言により、オンラインで速報的に公開され、それを研究者他がリアルタイムで検証するという事例も見られた。

このような国際的な各種情勢や情報発信のあり方の変化に鑑み、弊誌でも投稿論文の速報性と可視化を促進すべく、編集方針を改訂した。特に紙媒体での一斉公刊でなく、オンライン媒体に依拠したリアルタイム公刊にシフトすることで、学術論文や現地動向などの査読終了後の速報性を担保することで、研究者コミュニティその他でのリアルタイムでの学術研究に寄与が望まれる。また、各論文他にDOI（デジタルオブジェクト識別子）を付与し、書誌情報の提示方法も統一することで、今後の引用関係の可視化の要請にも答える基盤を作りたい。そのため、今回の決定に伴い、論文や現地動向を含むあらゆる投稿物の締切を廃し、投稿時点から査読を開始し、掲載決定後、校正が終わったものから順に、DOIを付与して、京都大学のリポジトリにて随時公開していくこととした。各論文の号数は刊行年毎に区切られ、ページ数は刊行順に付与されることになる。これに基づき「投稿規定」が改訂されているので、投稿をご検討いただく各位には一読を願いたい。

今回の改訂をもって願わくは、弊誌掲載論文が研究者間のリアルタイムでの議論・意見交換に貢献し、その研究成果が研究コミュニティや社会にスムーズに還元されることを強く希望するものである。

2021年1月1日

東方キリスト教圏研究会 編集委員 一同